キャラクター名
牙山 白狼（キバヤマ　シロウ）

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	不良高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16歳（高校1年生）	性別	男
覚醒	感染	衝動	殺戮	初期侵食率	32 %
出自	姉妹	経験	永劫の別れ	邂逅	家族

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	0			7
感覚	0	0	1			1
精神	0	0	1			1
社会	2	0	0			2

HP	35
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	9		射撃			ＲＣ			交渉		
回避			知覚	1		意志	6	1	調達		
運転：	2		芸術：			知識：			情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊の爪	白兵	7r+9	1	14		
牙砲	白兵	11r+9	1	16		獣の力+コンセントレイト+ビサイド

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
マテリアル適合者	
マテリアル：右足	
思い出の一品	
パワーソース：ビサイド	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
野獣本能	P	N		
RE義妹：牙山 真白	P 幸福感	N 恐怖		
RE今の両親	P 幸福感	N 恐怖		
シナリオロイス：川岸 彼方	P 親近感	N 隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果： CL-Lv								
破壊の爪	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 素手データ変更								
獣の力	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果： 攻撃力+[Lvx2]								
復讐の刃	2	6	リアクション	至近	単体	対決	-	
効果： CL-Lv　反撃								
死の眼光	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果： 殺意のこもった視線で相手を恐怖させる。白兵判定								
鋭敏感覚	★	-	メジャー	-	-	自動	-	
効果： 犬の嗅覚や鳥の長距離視力を一時的に得る。知覚判定								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【設定】
　仲のいい両親の元に生まれ、何不自由なく幸せな日々を送ることができていた。父親の仕事がわからなかったが、母親が専業主婦として居られているため、収入はかなりよかったのだろう。
　しかし、そんな幸せな日々は中学1年春に終わりを告げる。ゴールデンウイークが終わってすぐ父親は行方不明となり、獣に襲われ多くの人が亡くなるニュースが多くなってきた。暗くなった後は外に出てはいけなかったが、部活の体力作りをしなければならないこと、自分が襲われるわけはないという慢心でジョギングに出かけた。そして、出会ってしまった。ニュースで言われていた獣と。そして、その獣の顔の半分が父であることものと。白狼は父に駆け寄り救急車を呼ぼうとした。だが、それは阻まれ父に無理やり何かを飲まされた。そして意識を失い、目が覚めると病院に居た。入り口には泣き崩れる母。自分が何故病院に運び込まれたのか理解できず、顔を洗うために洗面所に向かい、自分の異変に気づいた。髪は黒から白へ。目は黒から赤へと変わり果てていた。そして、他にも大きな異変があることが後々にわかってくる。父が亡くなったこと。他の人は何故か自分を恐れ、友人も離れていき、母すらも自分を怖がっていること。そして自分の体の一部が獣へと変化できるようになっていたこと。理解が追い付かない多くのことが白狼を襲ったのだ。白狼は母や周りが怖がってしまうため、家に帰るのが遅くなり、母はボロボロになった心の癒しを男に求め半年も、たたない間に再婚した。突然できた義理の父親と義理の妹。二人と顔を合わせると、二人とも恐怖で顔を引きつった。白狼はもう他人と関わるのが辛くなっていった。
　父の命日から1年。中学2年生になってから、このままではいけないと一心した白狼は隠れて自身の獣と向き合うことにする。漏れ出ている殺気を抑えるように心を鍛え、力に振り回されないように体を鍛えた。そして、高校に入学する頃には周りから浮かずに馴染めるようになっていた。
　高校は地本から離れたところに入り、また友達ができるようになった。学校生活は上手くいっているものの、未だに家族とはまともに話せていない中、ある日妹からお弁当を受け取る。そして、「今日は早く帰ってきてね」と伝えられる。不可解に感じながら、寄り道をせずに家に帰ると、クラッカーの大きな音が白狼を出迎えた。そして、家族3人から「お誕生日おめでとう」と祝福をうける。その後、美味しい料理を食べながら、今までのことの謝罪。これからは家族4人でご飯を食べよう。など、約束をして久しぶりに家族の幸せをかみしめ涙を流した。
　次の日、「いってきます」と白狼が言うと3人の家族から「いってらっしゃい」と返ってきた。この幸せな日常を大切にしよう。もう絶対に失わない。そう心に決め、一歩を踏み出した。
　・・・だが、獣はそれ（日常）を許さない
【補足設定】